第 75 号　http://www.murayamaen.or.jp　2024 年 1 月 1 日

社会福祉法人　村　山　苑

# 村山苑だより

## 「新年を迎えて」

理事長　相原　弘子

新年あけましておめでとうございます。地域の皆々様をはじめ、法人役職員皆様方のおかげをもちまして、法人内各施設は無事新年を迎えることができました。改めて感謝申し上げます。

昨年は、足掛け四年もの間行動制限を余儀なくされた新型コロナウィルス感染症の法的類型が２類から５類に変更され、一般的には日常生活が戻ってきました。とは言え、感染症がなくなったわけではなく、福祉施設では、コロナによる感染症は度々発生しその対策に追われました。また、インフルエンザなども例年にない感染状況となりました。引き続き、基本的な感染症対策の継続を行い、気を緩めずサービス提供にあたっております。

さて、今年は医療介護障害のトリプル報酬改定があります。各関係団体から、食材費、燃料・光熱費の物価高騰や介護職員等の賃上げを考慮したプラス改定を求め提言、要望をしておりますが、その動向は、介護保険事業が厳しい経営状況にある村山苑にとっては、大変気になるところで、基本報酬にどのくらいプラスされるかを注視しているところです。

また、介護職員、保育士、援助員の人材確保は今までになく深刻な状況です。〝村山苑の魅力〟を発信するべく「広報委員会」を立ち上げて取組を始めました。私たちは、法人の基本理念のもと、福祉の現場で働く者として、サービスを利用するお一人お一人に、どのようなケアを、支援を、保育を提供するのか、を専門職として真摯に向き合うことの喜びを多くの方に伝えたいと思います。働いている職員の生の声を届けることで、福祉の仕事と私たちの魅力を感じていただきたいです。

今年は「辰年」。辰（竜）は架空の生き物ですが、神獣や霊獣のように扱われ、天候をも支配する巨大な力から、辰年は時代を動かす「変革（転機）」や「激動」の年と呼ばれているそうです。村山苑にとって良い転機の年となるよう、課題に取り組みたいと思います。

# 令和五年度 法人研修について

研修担当施設長 山城 一予

福祉サービスの要は、「人」です。村山苑では、福祉サービスの質の向上に向けて、様々な研修を年間を通して実施し、人材育成を図ってきております。以下、令和五年度の法人研修についてご報告いたします。

| 研修名 | 実施・予定日 | 参加人数 | 対象者 |
|---|---|---|---|
| ステップアップ研修 | 6月9日(金) | 13名(担当者含) | 障がい者雇用<br>各施設担当 |
| フォローアップ研修 | 9月26日(火) | 8名 | 新任職員研修参加者 |
| 特定職種研修（栄養士） | 10月17日(火) | 7名 | 各施設の栄養士 |
| 特定職種研修（看護師） | 10月30日(月) | 7名 | 各施設の看護師 |
| テーマ別研修 | 11月14日(火) | 16名 | 各施設より数名 |
| フォローフォロー研修 | 11月22日(水) | 17名 | 勤続5～10年の職員 |
| 福祉サービス研究研修 | 1月17日(水) | – | 各施設より複数名 |
| 新任職員研修 | 3月28日(木)<br>3月29日(金) | – | 令和5年度中途採用者<br>令和6年度採用予定者 |

**1．ステップアップ研修**

「村山苑で長く働くために」をテーマに、参加者と障がい者雇用担当者で、意見・情報交換を行いました。お気に入りのリラックス方法やお勧めの癒しスポットをまじえた自己紹介で互いの距離が縮みました。ほとんどの方が仕事で悩んだ時はその日の内に相談し解決するなど、担当者と上手にコミュニケーションをとり、頑張っている姿がとても印象的でした。

**2．新任職員フォローアップ研修**

村山苑に入職した職員が再会し「同期のつながりを深めよう」をテーマに繋がりを深める研修です。新人研修の接遇マナーの振り返り、「法人理念」についての講話後、小グループで近況報告や悩みなどを話せる機会となり、職種を超えた連帯感が生まれ、皆さんとても良い表情で意見交換されていました。

**3．特定職種（栄養士）研修**

高齢・障がい・保育と種別が異なる施設の栄養士が一同に会し、意見交換ができる研修です。今年度、導入したインボイス制度に係る、事務作業の意見交換は業務の効率化に繋がるヒントを得たようでした。又、食材料費の高騰化についての対策案や業者登録に係る、情報交換、行事食の献立内容の相談等々、有意義な話し合いが活発になされていました。

**4．特定職種（看護師）研修**

栄養士研修と同様に他施設の看護師が一同に会し、意見交換ができる研修です。各施設の感染状況や対策、個々の抱えている悩みを本音で打ち明け、親身になって解決策を提案し合う姿に、一人で抱え込まず、同職種ならではの共感性があり、頑張る力になっている姿に感動しました。

**5．テーマ別研修**

毎年、職員の学びに必要なテーマで、研修内容を企画しています。今年度は、様々なワークを通して、虐待防止の一環として風通しの良い環境づくりを目指す研修でした。相手の意見を否定しない、批判しないという事をグランドルールにしたワークを複数行いました。グループごとにチームで、目的意識を持っての討論が展開され、他職種で協力し合い挑戦する姿は、頼もしく思いました。

**6．フォローフォロー研修**

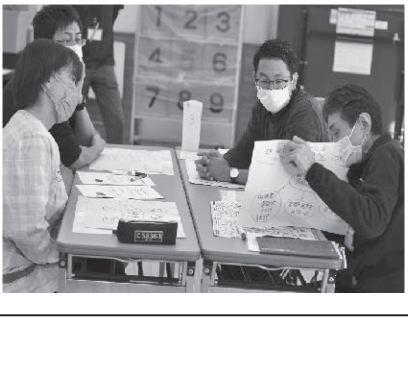
法人の喫緊の課題である「人材確保と定着について」をテーマに中堅職員で意見交換しました。時間が足りないくらいの活発な話し合になりました。建設的なご意見、貴重な課題になるご意見もうかがう事が出来ました。

**7．福祉サービス研究研修**

今年度も五施設の発表とし、各施設が取り組んでいる研究・実践を発表する予定です。施設を挙げての取り組みは、施設サービスの向上に繋がり、発表し合うことで、互いの施設に対する理解を深め、良い刺激になっています。

**8．新任職員研修**

法人の原点となる、理念や村山苑の歴史的な歩み、規定関係、接遇マナー、虐待防止について等のお話をする予定です。村山苑の一員としての心構えや志をもって働く基盤となる研修です。



# 研修参加報告

## 第8回福祉新聞フォーラム「高齢者のリハ実践講座」に参加して

村山荘　援助員　近藤　咲

私はリハビリ担当になり、六年程たちますがリハビリ関係の研修に参加するのは昨年と今年で二回になります。昨年は一日のみの参加でしたが、今年は三日間にわたり参加したのでとても充実し、濃い三日間となりました。

まず始めに三日間のスケジュールを確認した時に「シーティング」という馴染みのない言葉があり、研修意欲がそそられました。シーティングとは「座位保持」という意味であり、車椅子や椅子へ座った際の不良姿勢を調整する事です。様々な工夫をすることで生活を安全で快適に過ごす事が出来る様になると学びました。

また、今回の研修では車椅子やギャッジベット等の福祉用具を実際に用いてレクチャーをしていたのでとても分かり易かったです。福祉用具は高額な物が多い為、手作りをした物を持って来ており、作り方を教えてもらいました。「この手作りの物ならAさんに良いのではないか」、「このやり方ならBさんに良いのではないか」といろいろ考えさせられました。

最後に、職員へのアンケートで何が一番負担になっているのかを調査したところ、腰への負担が多いという結果がわかったそうです。職員への負担が多いという事は利用者にも負担になっている可能性があります。今回の研修を受けて介助する・される側が楽になるよう、より良い介助が出来る様にしていきたいです。

## 全国救護施設研究協議大会　研修報告

さつき荘　調理員　比留間　涼

この度第四十五回全国救護施設研究協議大会に十月十七、十八日の二日間参加させていただきました。四年ぶりの全面対面での開催となりました。

各講演では「生活保護の現状」や「個別支援計画策定」に係る広報啓発事業等の説明、「救護施設をめぐる状況」などの報告がありました。社会保障審議会・困窮保護部会の中間まとめでは「救護施設等の入所者ごとの支援計画の作成を制度化することが必要である」との意見が示され、マニュアルを作成し周知をしていく予定ということでした。

救護施設の見える化推進についても言及があり長期化するコロナ禍において支援を要する方に必要な支援が届くよう施設の活動等の部外・地域に対する見える化について、「福祉事務所のCWに救護施設への理解を深めてもらう事」が第一歩で施設へ来荘していただくことで理解を深めていただくと述べられていた点が私自身にとって印象的でした。

分科会では第三分科会の「虐待・権利侵害の根絶に向けた取り組み」に参加し、他施設での虐待防止に向けての取り組みや普段の支援の在り方等の情報交換が活発にできたのではないかと思います。

研修全体を通じて今後の保護施設のおかれている現状を見極め、柔軟に対応をしていく必要性を強く感じ、私も救護施設に勤める一職員として、変化してゆく情勢に対応しつつ利用者様へ適切なサービスを提供してゆけるよう努力を続けてゆく所存です。

## 福祉新聞フォーラムに参加して

ハトホーム　機能訓練指導員　川村　裕一

九月の二十七、二十八、二十九の三日間、東京ビッグサイトで福祉新聞社主催の福祉新聞フォーラムが開催されました。

「高齢者のリハ実践講座」と題された講義が三日間で計八講義。内容もシーティング、施設でできる運動の紹介、高次脳機能障害、認知症、福祉用具についてなど多岐にわたります。

受付で事前に予約していた名前を告げると、施設名と施設のある都道府県名の書かれたネームプレートを渡されるのですが、三日間の講義とあって全国から聴衆が集まっている様子で、「北海道」や「大阪」と書かれたプレートを見かけました。

どの講義も勉強になるものばかりでしたが、特に印象的だったのが福祉用具についての講義でした。福祉用具は「値段が高い」「個々の利用者さんに合わせ難い」ということがありますが、講師の先生は「無いものは自分で作る」という方で、「対象者に必要であれば、特殊だろうが安かろうが全部福祉用具である。」ということを仰っていました。目から鱗でした。

「高いもの、良いもの、新しいもの」は時に必要だとは思いますが、代替できるものは安いもので代替する、もしくは自分で作るという柔軟さも必要だなと感じました。

私は不器用なので、同じように実行できるかはわかりませんが、こういった講義、研修は知識だけでなく、考え方にも幅を持たせてくれます。こういう場に行かせていただき、施設長はじめ、職場の方々にも感謝申し上げたいと思います。

# 広報委員会

## 今これをやらなければ村山苑は人材を確保できない

村山苑広報委員会
委員長　鈴木　野生

令和五年度より、村山苑広報委員会が立ち上がりました。種別に関係なく法人内より五名のメンバーが集まり、担当施設長のもと活動を行っています。

主な目的は、「採用」と「集客」です。中でも、「村山苑及び社会福祉法人の魅力を発信し、村山苑のイメージの確立及びブランド化を目指し、働く人材の確保・利用者の確保・地域貢献につなげる」『福祉のあたりまえ』『村山苑のあたりまえ』に囚われない新しい発想を見出し発信する」ことを念頭においています。

五月にメンバーが初めて顔を合わせました。発足したばかりの委員会で活動の手を広げ過ぎても中途半端になってしまうのではという意見から、まずはどの事業所でも悩ましい人材不足に対してのアプローチとして、「採用」に焦点を当てることとしました。また、村山苑内の職員にも広報委員会の発足を周知し、同時に活動への協力・理解を得たいと考え、内部向けの広報紙を発行しました。現在は、次年度からの新たな広報ツール発信に向け、専門家による助言を受けながら、法人のブランディング、SNS等による情報の発信などについて学び、検討しているところです。

新たな取り組みを始める際には、必ず壁にぶつかります。失敗も繰り返すでしょう。そこで止めない、諦めない覚悟を持って臨んでいます。うまくいったとしても結果として現れてくるのは数年後でしょう。それでも、今やらなければその数年後が来ることもありません。五年後十年後に、「最初は苦労したな」「あの時に始めてよかった」と振り返れるように、目指す広報の姿からバックキャスティングをして、今すべきことに全力で取り組んでいきます。皆様のご理解・ご協力を是非ともお願い致します。

# むらやまえん生活相談所について

相談員　藤田　真利

令和五年四月より「トータルケアサポートむらやまえん生活相談所」の相談員となりました、藤田真利です。よろしくお願いいたします。

「むらやまえん生活相談所」は、生活困窮者をはじめ近隣地域の皆様の困り事などを、行政区分を超えて総合的に伺い、必要な社会資源へ繋げることで地域社会に貢献する事業として、平成二十五年十二月一日に開所しました。電話やメール、訪問など各種の方法でご相談を受け付け、現在は生活総合相談事業以外に中間的就労（認定生活困窮者就労訓練事業など）の窓口としても活動しています。

これまで受け付けた相談内容は、例えば、収入が少ない、または収入はあるが家計が上手くいかないといった経済的困窮のご相談、福祉サービスを利用したいけれども相談先がわからないといった手続きのご相談、虐待や失業などで今日の食べ物や明日の住まいがないといった緊急のご相談など、様々です。

戦後、我が国の福祉は高齢・障害・児童など対象者の属性に合わせて専門分化し、発展してきました。しかし現在では、平成二十七年に生活困窮者自立支援法、令和三年には改正社会福祉法が施行され、長年の課題である「制度の狭間」を解消し、包括的地域共生社会を目指す取り組みが全国で実施されております。村山苑に身近な東村山市や国分寺市でも市や社会福祉協議会が総合相談の窓口を開設しており、当相談所開所当初に比べますと地域の方々は必要な支援へと繋がりやすくなっています。「むらやまえん生活相談所」は同種の窓口の中では規模が小さく、何かを即座に解決できるわけでもありません。ですが引き続き、個々の困り事に寄り添い、その方の自立と生活の安定に寄与することを通して、地域福祉の向上に貢献していきます。

何かご相談がありましたら、人手がひとり増えたと思ってお気軽にお声掛けください。逆に、相談所が活動する上で皆様のお力添えをいただくこともあるかと思います。その際はどうぞ、ご協力をよろしくお願い致します。

むらやまえん生活相談所
ＱＲコード

# 施設通信

## つぼみ保育園
## 『わらべうた』

主任保育士　芳賀真由美

つぼみ保育園では年三回、わらべうたの先生に来て頂いています。わらべうたは今の時代の音楽から比べるととても地味ですが「わらべうたは薄味。だけど出汁が効いている。」と先生は言います。大人がわらべうたを口ずさむと自然と耳を傾け一緒に口ずさんだり、一緒に遊ぼうと近づいてきたり。先生曰く、この姿は日頃からわらべうたに親しんでいるからこその姿で親しんでいない子は関心が薄いとのことです。わらべうたの出汁がつぼみっ子たちに沁みわたっているのを感じます。

朝夕の時間やお昼寝の時間、ちょっとした時間にわらべうたが聞こえます。なかなかレパートリーが増えないという大人の悩みもありますが「好きなうたを繰り返しうたうのも大事。」という先生のアドバイスを胸にこれからも大切にしていきたいと思います。

## ふじみ保育園
## 『地域へ向けてぴよぴよ体験』

保育士　角田須美子

ふじみ保育園では、妊婦さんや四ヶ月までのお子さんを抱えた保護者の方向けに「ぴよぴよ（保育体験）」という事業をしています。子育てについての不安や悩みを相談する人も場所もないと言う声を聞き、実際に保育園に来ていただき子どもたちの様子を見たり聞いたり、関わることで〝子育てって〟と発見や出産後の子育てのヒントが見つかればと思い、地域へ呼びかけをしています。

参加された方は、「離乳食の進め方や食べさせ方など相談できて良かった」と、ホッとされ帰られる方も多く見られます。

新しい家族を迎えることは、とても幸せなことですが、共に責任や不安を抱くことも少なくありません。育児に対する情報や知識を提供する事で、安心して子育て出来るよう保育園として支えになれればと思います。

## ほんちょう保育園
## 『ほんちょう保育園の食育活動』

栄養士　海老原友最美

例年、様々な食育活動を行っています。その中でも、今年度はお米屋さんから米の苗を頂きお米作りに挑戦しました。子ども達はもちろん、職員も解らない事だらけです。しかし、ほんちょう保育園は、ケアセンターと合築の施設で、利用者さんの中に農業をされていた方がいました。春、子ども達と一緒に苗を植え、稲の成長を見守り、秋には稲刈りをしました。現在、もみがら取りに苦戦していますが、栽培したお米を頂く日を楽しみにしています。

もう一つの試みは魚の解体ショーです。子ども達の目の前で調理師がその日の給食で使う鯖と鰤の解体を行いました。その魚を使った初メニューのさばご飯は想像以上の人気となりました。

初めての取り組みで得られることは多く、子ども達だけでなく、それに関わる職員も共に成長できます。また、保護者の皆さんを始め、関係機関の方々からのご助言も大変感謝しております。これからも子ども達と一緒に楽しみながら様々なことに取り組んでいきたいと思います。

## ひよし保育園

### 『ほけん指導（歯磨き指導）』

看護師　天野　美穂

健康教育を行う上で、日々の保育園生活上、必要なことを担任保育士、栄養士などの多職種と連携し、テーマに沿って「子どもたちに必要なことは何か？」を考え話し合いながら、保健指導を行っています。クラスによっては、集中できる時間が短く、子どもたちに、どのように伝えていくか？インパクトのある場面など、教材模型を使用し、保育士がアドリブで寸劇をする等、子どもたちが楽しく聞けるよう工夫しています。

中でも「歯磨き指導」は、コロナ禍の飛沫感染が問題で、三年間園での歯磨きをやめていました。今年は、制限がなくなり、歯磨き指導を再開しました。

先日くるみ組（二歳児）では、虫歯の話をしました。大好きなおやつ（アイス、チョコレート、スナック菓子）を食べて、歯磨きしなかったら、虫ばい菌が来て歯が痛くなる、という寸劇を保育士がしました。この後、子どもたちから、「歯磨きをしないから、虫歯なるんだよ。」という声が聞かれ、笑顔で「歯磨き頑張ります。」の声を聞き、保健指導の良さを実感しています。

## 村山荘

### 『日帰り旅行』

援助員　井津木一歩

村山荘ではコロナウイルスの流行を受け中止となっていた旅行行事が令和四年度に復活。今年度も二つの班に分け十月と十一月に川越へ行く事が出来ました。

お昼に鰻を食べ、まつり会館（川越の祭りの歴史が保存された資料館）を見学し菓子屋横丁を巡る半日程の行程でしたが、利用者の皆さんには楽しんで頂けた様子でした。特に昼食の鰻重が好評だったのは、行事のメインが美味しい物を食べに行くという今年の旅行の企画意図でもあった為、担当者としてやったぞという気持ちよりも良かったという安堵が大きかったです。

また、行事担当以外の職員の協力もとてもありがたかったです。担当職員の中には、日帰り旅行未経験の職員もおり不慣れな部分もあったのですが、担当外の職員がその穴を埋め適時報告し合いながら行動する事で大きなトラブル等は起きず、無事に旅行を終える事ができました。報連相をしっかりする事は基本的な事ですが、その基本が守られチームワークを発揮し行事を成功させられた事は素晴らしい事だと思っています。

## さつき荘

### 『市民文化祭』

援助員　山本眞由美

第四十九回東村山市民文化祭が十月二十日から十一月五日まで開催されました。

東村山市内各公民館で開催され中央公民館だけでも八十以上の団体が日ごろの活動の成果を発表されています。

さつき荘は十一月三日から五日までの三日間一階ギャラリーにおいて利用者様のクラブ活動の様子や作品をパネルにし参加しました。

毎年参加しており、数年前までは個室を借りさつき荘の施設紹介とクラブ活動で作った作品を展示できていました。華道部の生け花があり書道の先生が書かれた作品なども迫力がありとても良い展示でした。紙漉きの体験コーナーなど実施し子供さんに作品を作って持ち帰って頂いた事もありました。

新型コロナ流行や参加者の高齢化による規模縮小が続き今年もギャラリーに数枚のパネルを展示するのみとなってしまいました。

来年以降も個室の借り入れは難しいとの事ですが割り当て箇所を存分に使い【救護施設とは何かを地域の方にお知らせする場】を意識した展示をしたいと思います。

## 福祉事業センター
### 『日帰り旅行』

職業指導員　相原　大

福祉事業センターでは、秋の行事として日帰り旅行を実施しました。今回は、利用者の方から意見が多かった「ぶどう狩りとリニア見学センターの見学」をメインに山梨県に行きました。

当日は好天に恵まれ、御坂農園でのぶどう狩りは、甘い葡萄を堪能し、農園の景色や山々の写真撮影も楽しむことができました。山梨ＦＵＪＩフルーツパークでの昼食は、甲州地鶏五目せいろ御膳を食べました。せいろ料理は「温かく美味しかった。」との利用者の方の声がありました。お腹も満足になり、シャインマスカットやフルーツを使ったバウムクーヘンなど皆さん思い思いのお土産を買いました。中には、食後のデザートとして、みかんやぶどうのソフトクリームを楽しむ利用者と職員の姿が見れました。その後のリニア見学センターでは、５００キロで走行するリニアを間近で見ることができ、興奮気味に「速っ」など利用者の方も喜んでいました！また、「自分の見たいものを自分のペースで見ることができて良かった。」という声もありました。

日帰り旅行の担当は初めてだったので緊張しましたが、事故もなく無事に帰ることができ、何より利用者の方々と沢山楽しめて良い旅行になりました。

## ハトホーム
### 『福祉サービス研究研修の紹介』

施設長　兼市　琢磨

毎年十一月に施設内で各部署の様々な取り組み、その成果を発表する福祉サービス研究研修があります。今年も各部署、様々な取り組みを行いました。外部の方々にお知らせする機会が少ないので簡単にご紹介したいと思います。

今回は五つの部署から研修発表がありました。二階介護職からは、誤嚥性肺炎の予防ということで、経口摂取を継続する為の唾液腺マッサージの効果について、三階介護職からは、信頼関係、継続性をキーワードとして、入居者とのかかわりについて、診療からは、立位、歩行訓練に焦点をあてた取り組み、調理部門からは、咀嚼機能、嚥下機能に関連してハトホームで提供される食事形態を含めた食事提供サービスについて、事務所からは、経口摂取が難しくなってきた入居者のケースを振り返りながらの発表がそれぞれありました。

一月に各施設からの代表職員が発表する研修会がありますが、今回取り組んで頂いたことが、少しでも継続でき、更なる成果に繋がればと思います。職員にとって、業務多忙の大変な中での取り組みは、やりがいとスキルアップに繋がっています。

## ほんちょうケアセンター
### 『村山苑リハビリ運動教室　本格始動！』

介護支援専門員　野崎　礼

月二回（土曜日）「村山苑リハビリ運動教室」をハトホーム１Ｆ（旧デイルーム）で行っています。今年九月より開始し、四カ月が経ちました。

「村山苑リハビリ運動教室」は少しでも長く地域で、自宅で暮らしたいという思いを支援することを目指しています。そのため、身体的機能や認知機能の維持はもちろんのこと、生活上の課題や地域の課題なども共に考え、向き合いたいと思っています。かかわる職員も機能訓練指導員をはじめケアマネージャーやむらやまえん生活相談所の相談員等が中心になっています。これまでの参加者は主に富士見町、美住町在住の方々が中心でした。

令和六年一月よりリニューアルし、全六回コース（無料）定員十名でスタートします。運動教室は機能訓練指導員が主となりメニューを考えています。参加後には良い疲労感、体を動かしている実感があり「また参加したい！」と声を多く頂いています。

昨年十二月には、東社協主催の「令和五年度地域公益活動　実践発表会Ｐａｒｔ.２」で実践発表させていただきました。

「村山苑リハビリ運動教室」に多くの方々にご参加いただきたいと、切に願っています。

## 寄附について

左記期間において、御寄附頂いた皆様をご紹介致します。
ご支援ご協力頂き、心から感謝申し上げます。（敬称略）

**■令和四年四月一日～令和五年三月三十一日**

青木喜助、秋葉茂也、阿久津久代、芦﨑康彦、阿部勝子、石塚和子、植田哲、宇治和胤、大谷建興株式会社、岡本浩文、株式会社コスモス医工、加藤スミ子、岸田晴男、倉田正子、小島貢、小松啓一、小松サチコ、小松真知子、小松康典、佐藤キミヨ、佐藤繁治、佐藤忠佐、佐藤道雄、志賀英男、杉山陽子、聖心女子学院中高等科、田島博志、田村咲子、千葉規子、中央防災株式会社、手塚真一、手作りパンの店　萌留珠、當間義夫、野村実、半澤恒子、廣瀬豊彦、富士見町調剤薬局、本多映子、ほんちょう保育園保護者の会、松浦富子、南勲、明治学院中学校・明治学院東村山高等学校、山田久美子、山城一予、有限会社いとう屋、有限会社サンワールド西東京、有限会社スギモト米店、有限会社高橋米穀店、有限会社ハマナカ事務機、渡部典子（五十音順）

## 新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。旧年中は格別のご高配を賜りまして、誠にありがとうございました。本年も宜しくお願い申し上げます。

村山苑一同

## 【感謝状授与施設】

福祉事業センターは、東京学芸大学附属特別支援学校様より感謝状をいただきました。

感謝状

社会福祉法人 村山苑
福祉事業センター 殿

貴所は本年度における本校生徒の現場実習に際して職場をご提供下さり多大なご協力を賜りました
茲に深く感謝の意を表します

令和五年十二月一日

東京学芸大学附属特別支援学校
学校長　藤野　博

## 【お知らせ】

当法人理事の柿沼一彦氏が、令和五年十一月三十日付をもって、退任されました。平成二十六年四月一日より、当法人の理事として、村山苑にご尽力いただきました。ここに感謝申し上げます。

## 村山苑が経営している施設

〒189―0024　東京都東村山市富士見町2―7―5

●法人本部　☎042―393―8496

●むらやまえん　生活相談所　☎042―313―0301

●村山荘（救護施設）　☎042―391―1262

●ハトホーム（特別養護老人ホーム）　☎042―393―7574

●第2ハトホーム（特別養護老人ホーム）　☎042―306―2320

●福祉事業センター（障害福祉サービス事業）　☎042―395―3636

●ふじみ保育園（保育所）　☎042―394―9936

〒189―0024　東京都東村山市富士見町2―8―2

●さつき荘（救護施設）　☎042―396―2244

〒189―0024　東京都東村山市富士見町2―2―2

●つぼみ保育園（保育所）　☎042―393―6400

〒189―0014　東京都東村山市本町3―43―1

●ほんちょう保育園（保育所）　☎042―399―2100

●ほんちょうケアセンター（高齢者施設）　☎042―399―2102

〒185―0003　東京都国分寺市戸倉2―27―6

●ひよし保育園（保育所）　☎042―843―0202

## ▲あとがき▼

明けましておめでとうございます。二〇二四年が幕をあけました。今年は夏頃に新紙幣を発行すると財務省と日本銀行が発表しています。改刷されるのは二十年ぶりとなる新紙幣の発行で、肖像画の人物の変更だけでなく、偽造防止のための新しい技術も導入されるとのこと。村山苑では、法人の魅力を発信し、未来の人材確保に繋げるとして広報委員会を発足しています。また、地域の皆さま向けに始まったリハビリ・運動教室は盛況につき、各回の利用人数を拡大いたします。地域における村山苑の役割を考え、社会福祉の現場で働く一員として、より良いサービス提供をと心を新たに頑張りたいと思います。

皆さまにとりましても良い年となりますよう、ご祈念申し上げます。

（Y・S）

― 表紙の写真 ―

「山梨県富士川町にて」

提供者　H・C氏

本誌は本人同意のもとに写真・作品等を掲載しております。

＊　＊　＊

ご意見・ご感想等お気付きの点がございましたら、左記へお寄せ下さい。

令和六年一月一日　発行
東京都東村山市富士見町二―七―五
社会福祉法人　村山苑
発行者　相原弘子
印刷所　東京都同胞援護会事業局
東京都墨田区両国四―一―八